

# 《資料館便り》

平成 26 (2014) 年  
6 月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館  
歴史民俗資料館長 三森孝則  
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

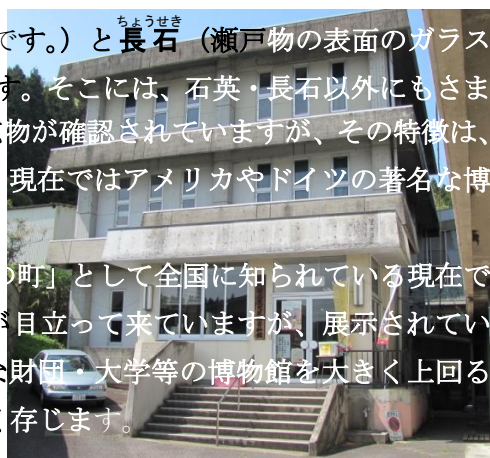
## 《館長あいさつ》

### 鉱物の町「いしかわ」～海外の博物館にも展示されている石川の鉱物～

石川町は「**日本三大ペグマタイト産地**」に数えられています。

ペグマタイト（きましようかいこうがん 巨晶花崗岩）とは、**石英**（せきぎょうい ガラスなどの原材料です。）と**長石**（ちやうせき 瀬戸物の表面のガラス質となる**釉薬**となります。）の巨大な結晶の集合した状態を呼びます。そこには、石英・長石以外にもさまざまな鉱物が含まれています。現在、石川郡内で約 150 種類の鉱物が確認されていますが、その特徴は、他の産地に比べて、何といても**圧倒的な結晶の大きさ**と言われ、現在ではアメリカやドイツの著名な博物館にも、石川の鉱物は展示されているほどです。

資料館は、本来歴史民俗関係の展示が主である所ですが、「**鉱物の町**」として全国に知られている現在では、約 8 割が鉱物となっています。建設後 40 年も経ち、老朽化が目立って来ていますが、展示されている鉱物は、**すべて日本最大級の逸品**です。質量とも、国立や大きな財団・大学等の博物館を大きく上回る内容です。町民の皆さまには、是非、一度足をお運びいただきたく存じます。



## ○【平成 25 年度の実績】

※「ペグマタイトの記憶」企画展と出版に関して、大きな反響があり、多数の取材がありました。また、これに関連し、貴重な「飯盛里安博士関連資料」が当館に寄託されました。

- (1) 開館日数 ⇒ 303 日
- (2) 入館者数 ⇒ 1851 人 内訳 (町内：464 人 県内：716 人 県外：671 人)
- (3) 主な活動

- ① 企画展 ⇒ 「ペグマタイトの記憶」～石川の希元素鉱物と二号研究のかかわり～ 参観：863 名
- ② 出版 ⇒ 「ペグマタイトの記憶」編集・出版 ※裏面に関連記事があります。
- ③ 郷土教育 ⇒ (児童・生徒対象の教育事業：歴史民俗関係や鉱物について) 10 校 289 名
- ④ 鉱物教室 ⇒ (成人対象の鉱物普及事業) 10 回開催 (鉱物採集 3 回、実験講義 7 回)
- ⑤ 学校所蔵鉱物調査 (学校統合関連：新石川小へ移管する鉱物の調査) ⇒ 6 校
- ⑥ 取材対応 ⇒ 福島民報、福島民友、町民ニュース、夕刊いしかわ、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、東京新聞、中国新聞、NHK、TUF、BS11 他



郷土教育 石川小 3 年生

## ○【平成 26 年度の主な計画】

- ① 企画展 ⇒ 「阿武隈地域のペグマタイト鉱物」(仮称：夏季実施)
- ② 調査・研究 ⇒ 「飯盛博士資料」資料目録作成と研究：継続
- ③ 郷土教育 ⇒ 児童・生徒対象の教育事業：継続
- ④ 学校所蔵鉱物調査 (学校統合関連)：継続
- ⑤ 学校所蔵古文書調査 (学校統合関連)：新規
- ⑥ 第 2 次鉱物保護収集委員会立ち上げ：新規

# いしかわの「お宝」 1

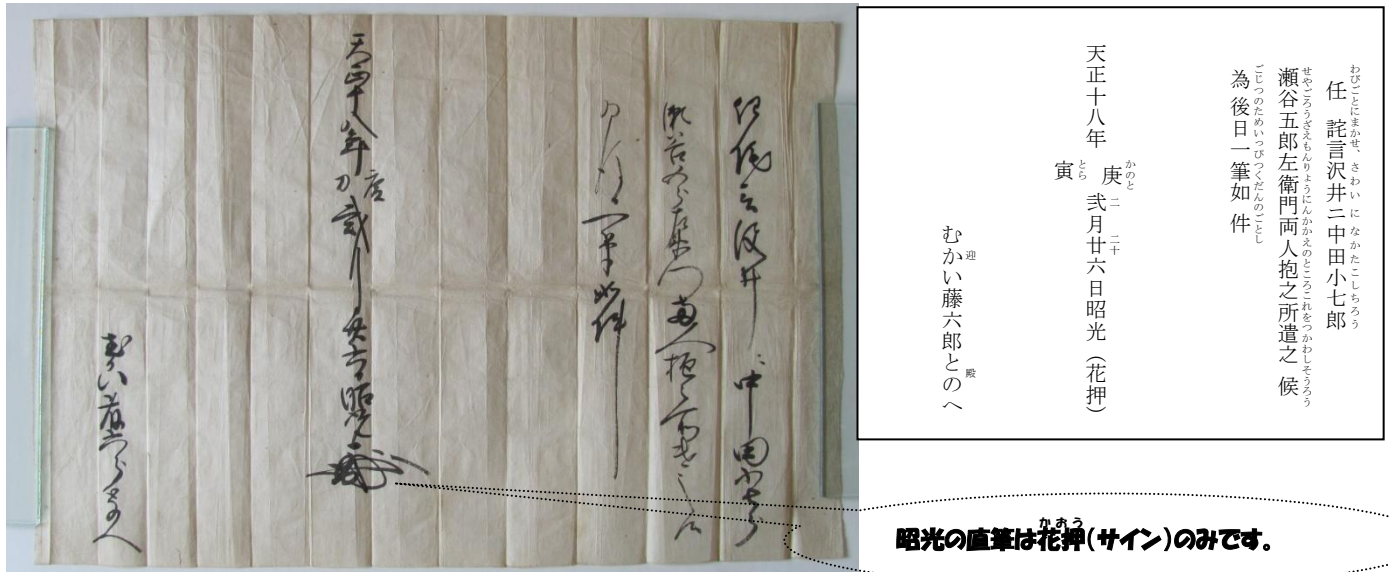
石川町指定文化財

いしかわあきみつちぎょうあてがいじょう

## 「石川昭光知行宛行状」(資料館蔵 迎森一家寄託文書)

○石川昭光は、戦国時代、石川地方を支配した石川氏最後の領主で、有名な伊達正宗の叔父にあたります。天正18(1590)年の秋、天下は豊臣秀吉のものとなり、前年宿願であった会津を支配に置いた正宗も、秀吉によって北へ追われます。昭光もわずかな家臣を引き連れ、石川の地を去りました。昭光は、後に正宗から、宮城県角田の地に一万石を与えられます。「石川昭光知行宛行状」は、(現在までに確認されている)石川に残された最後の昭光の文書で、町内山形の迎森一家に長く伝えられたものです。

「資料館便り」では、町に伝えられて来た貴重な文化財や、鉱物や動植物などの天然記念物を紹介いたします。



昭光の直筆は花押(サイン)のみです。

### 《文書の大意》

タテ 34 cm × ヨコ 51.5 cm

(むかい(迎)藤六郎の申し立てにより) 沢井(石川町沢井地区)に中田小七郎と瀬谷五郎左衛門の二人が所持していた土地を(迎藤六郎に)与える。後日(土地の権利等の争いに備えて)の証しとして。以上。

### 《この文書が出された経緯》

昭光の家来である迎藤六郎が戦で手柄をあげたことに対し、昭光からの褒美として土地が与えられたものか、あるいは、中田と瀬谷がそれぞれ所有していた土地に関して、何らかの所有権争いが発生し、その結果、迎の土地として認められた等さまさまに考えられます。

## ☆ 新刊紹介

### ○「ペグマタイトの記憶」

石川地方で産出される希元素鉱物を巡る多くの人々の動きを、研究史、鉱業史、そして戦時下、この町に疎開して来た理化学研究所飯盛里安研究室の「二号研究」(陸軍による原子爆弾開発研究)へのかかわりを中心に、当時の資料をもとに記述。新聞、テレビ等で紹介され、各方面から注目されています。

A4判 273頁 販売価格 3,000円(税込)

※現在、資料館と公民館で好評販売中。残部僅少

リチウム・トリウム・ウラン等、存在量の少ない元素。先端産業に欠かせません。

